

小学校高学年における教科担任制の充実

| | | | |
|-----|-------------|-----|---------------------------|
| 中核校 | 浜頓別町立浜頓別小学校 | 指定校 | 浜頓別町立浜頓別中学校 猿払村立浅茅野小学校 |
|-----|-------------|-----|---------------------------|

実践前の状況

- ・ICTを活用した授業の実践イメージの共有が不足していた。
- ・高学年学級担任の教材研究等学年業務にかかる時間が不足していた。

実践の概要

小学校高学年における理科専科教員の配置

- ・浜頓別町立浜頓別小学校第3学年から第6学年、猿払村立浅茅野小学校（以下、浅茅野小学校という）第3学年から第5学年の理科専科教員として、各校の理科の授業実践を行った。
- ・ICTを効果的に活用した授業実践及び、浅茅野小学校における第3・4学年複式の理科の指導計画の作成を進めた。

小学校高学年における国語科（書写）の教科担任制の実施

- ・浜頓別町立浜頓別小学校の第5・6学年国語科（書写）において、教科担任制を実施し、専門的な書写の授業を実施した。

校内研修による実践の共有

- ・校内研修の中で、Google フォームやジャムボード、スプレッドシートを活用した授業実践について情報提供し、各校のICTを活用した授業改善の具体について共通理解を図った。

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・理科専科教員が初任段階教員であることから、理科の授業づくりだけでなく、基本的な授業づくりに関する情報を他の教員と共有できる校内体制を整えた。また、浅茅野小学校の校長と連携し、複式授業の進め方について、浅茅野小学校の教員から指導を受けられる指導体制の構築を図った。
- ・国語科（書写）の専科教員の専門的な授業実践を校内研修等の機会をとおして、全教員へ還元できるように場を設定した。
- ・指定地域の取組について、授業参観や学校運営協議会等を通じて情報を発信することで、地域と連携・協働して今日的な教育課題を解決する学校モデルの構築を推進した。

〔専科教員の取組〕

- ・理科における問題解決の過程を重視した単元構成やICTを効果的に活用した授業実践、書写の専門性を生かした授業改善の具体を積極的に指定地域内に発信した。

成果（ ）と今後の課題（ ）

児童が授業の中でICT端末を活用し、学びに生かす姿が増えた。〔全国学力・学習状況調査児童質問紙「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思う。」の項目について、「そう思う」と回答した児童の割合が全国平均を上回った。（浜頓別小：93.8%・全国：67.5%）〕

児童が学級担任以外の教員とも集中して授業に臨むことができた。〔学校評価（児童）の「担任以外の先生と勉強する時間では、集中して授業に取り組みました。」の項目について、肯定的な評価が増加した。（R4：93% R5：96.6%）〕

専科教員の配置により、高学年学級担任の教材研究や分掌業務にかかる時間が生まれ、業務の負担軽減につながった。

専科教員のICTを活用した授業実践を交流し、各教員のICT活用指導力の一層の向上を図る必要がある。



【浜頓別小学校での授業の様子】



【浅茅野小学校での授業の様子】